

未来型図書館つながるミーティング

～本づくりワークショップから図書館を構想しよう～

【第4回】

2022年12月10日（土）

未来型図書館つながるミーティング ～本づくりワークショップから図書館を構想しよう～ [第4回]

1. 挨拶

13:30-13:35 (5分)

2. オリエンテーション : arg

13:35-14:00 (25分)

- ・ 方向性・目的の共有
- ・ 第1～3回の振り返り
- ・ 公立小松大学学生参加の紹介
- ・ ビジョン・コンセプト案について
- ・ 妄想ストーリーづくりの方法・ポイント

3. 対話「『未来型図書館周辺の妄想ストーリー』を描こう」

- ・ 妄想ストーリーラフづくり [個人]

14:00-14:15 (15分)

- ・ ペアレビュー [ペア]

14:15-15:00 (45分)

- ・ 妄想ストーリーのブラッシュアップ [個人]

15:00-15:10 (10分)

(休憩 : 10分)

- ・ 共有 [グループ]

15:20-15:45 (25分)

4. 全体共有・まとめ

15:45-16:00 (15分)

オリエンテーション

安らぐ

解決する

つながる

学ぶ

を見つける

体験する

表現する

つくる

遊ぶ

知る

図書館 の 可能性



「未来型図書館」ができることで
小松市というまちは、
わたしたちの暮らしは、
どう変わっていくのだろうか？

「未来型図書館」ができるまでの道のり

<わたしたち>にとって
「未来型図書館」とは何か



基本構想

基本計画

設計・工事
管理運営検討

開館

未来型図書館のあり方に関
する調査研究報告書

<わたしたち>にとって「未来型図書館」とは何か

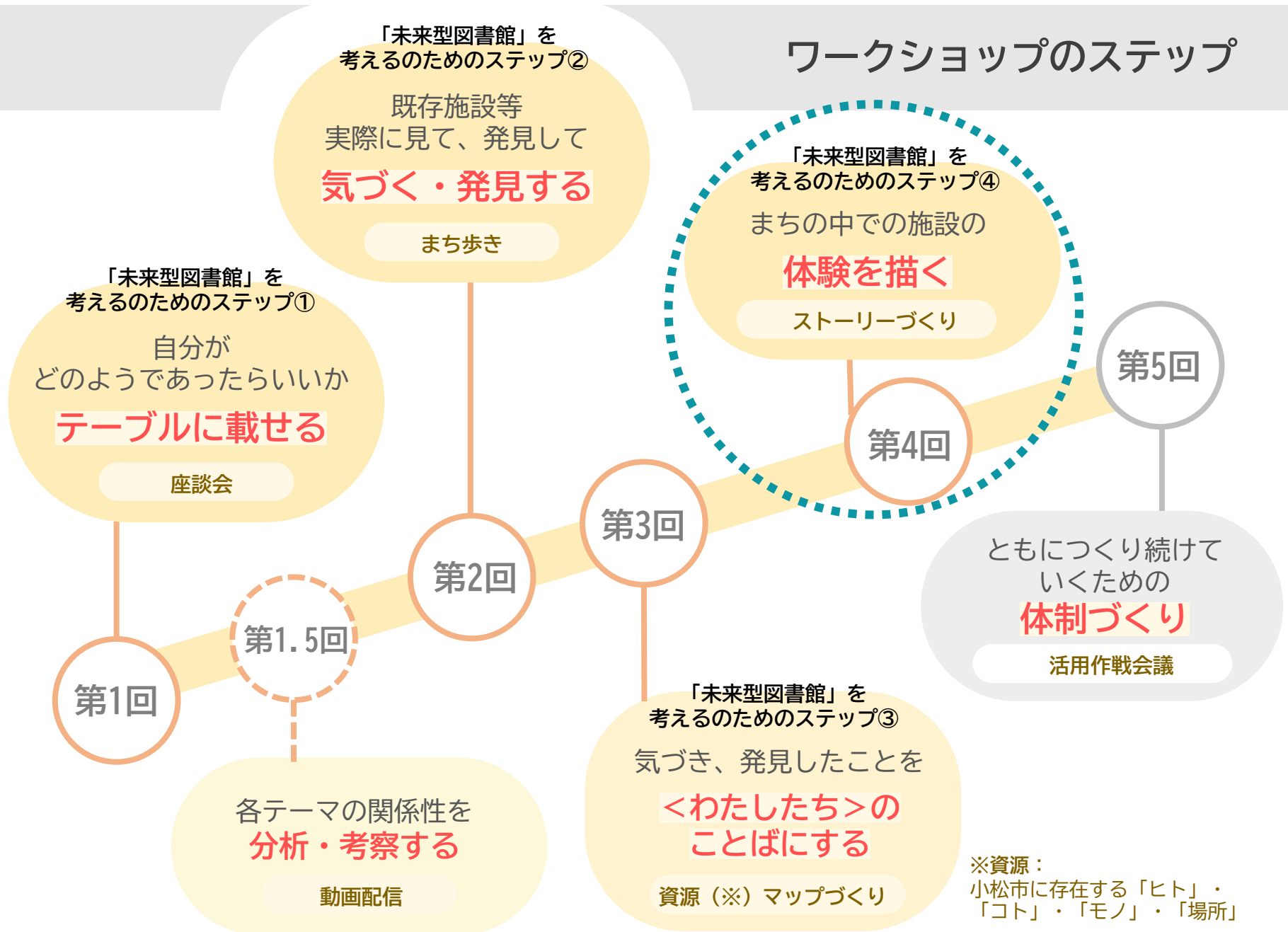
「未来型図書館」ができることで、小松市というまちは、わたしたちの暮らしは、どう変わっていくのだろうか？

それを考えるために

小松市という
まちのことを
知る

<わたしたち>
自身のことを
知る

ワークショップのステップ



今回から 公立小松大学の学生のみなさんに 参加いただいています

地域ブランディング論



地域実習
学生ワークショップ



7月

1

9月

2

3

自分が
どのようなであつたらいいか

テーブルに載せる

座談会

開催済み！

第1回

「未来型図書館」を ともに描いていくための“視点”を見つける

思いをテーブルにのせ
テーマを設定しよう！

第1回対話の様子



7月

1

9月

2

3

既存施設等
実際に見て、発見して
気づく・発見する

まち歩き

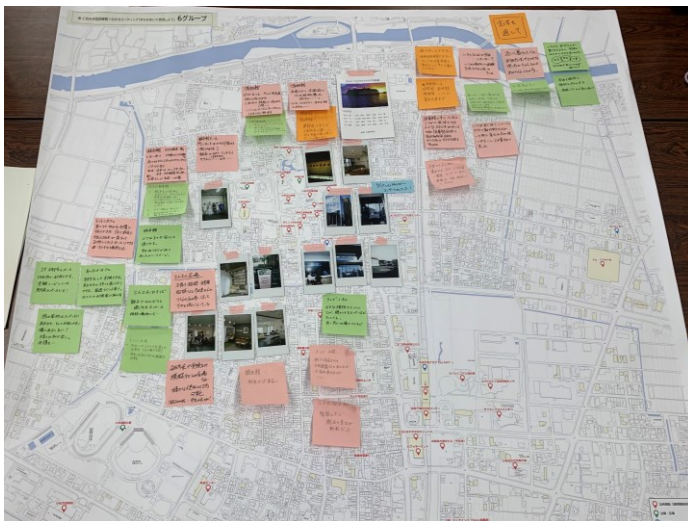
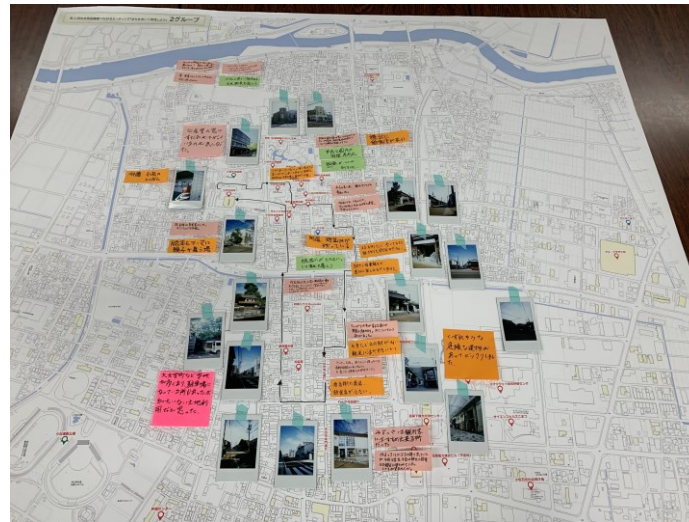
開催済み！

第2回

小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト）を見つける

まちを歩いて発見しよう！

第2回対話の様子



7月

1

9月

2

3

気づき、発見したことを

<わたしたち>の
ことばにする

資源（※）マップづくり

開催済み！

第3回

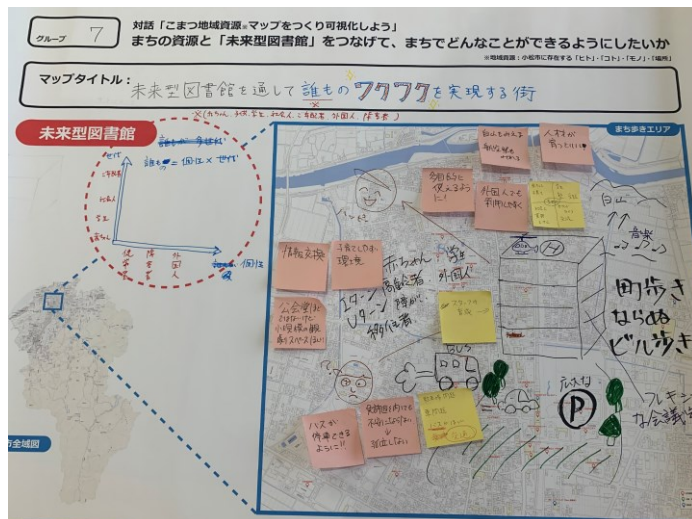
※資源：小松市に存在する「ヒト」・
「コト」・「モノ」・「場所」

まちの資源※と「未来型図書館」をつなげて、
まちでどんなことができるようにしたいか

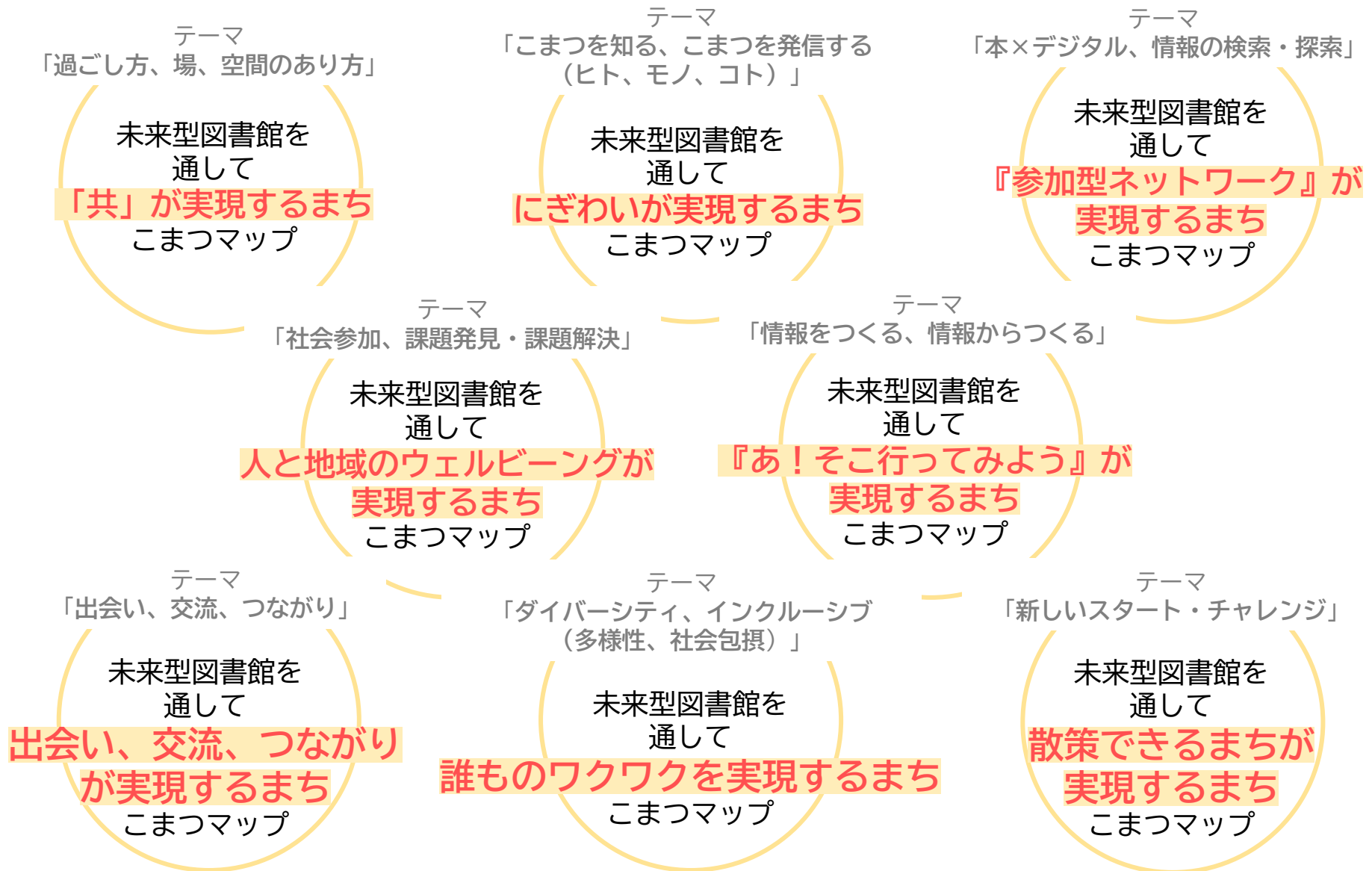
「こまつ地域資源マップ」をつくり可視化しよう！

※地域資源：小松市に存在する「ヒト」・「コト」・「モノ」・「場所」

第3回対話の様子



第3回終了時に出来上がった8つのマップ



4つのポイント

未来型図書館ができることで
小松市というまちがどのように変わっていくと良いか、
みなさんが根底で共通して願い、期待していること

魅力や良さを活かし、
まちを元気な状態にしていく

自らの手で
社会のあり方や関係性を
よりよくつくっていく

人や情報がつながることで
未来にわたって
生き生きとした循環を生み出す

すべての人にひらかれ、
その営みを支えていく

ビジョン・コンセプトとは

まちや人々の暮らし

ビジョン

ビジョン：
未来型図書館ができることで、
まちや暮らしで実現させたい
あり方

施設
(未来型図書館)

コンセプト：
ビジョンを実現する具体的構想。
「何を提供するか」

コンセプト

機能

機能

機能

施設を通して起こる体験



ビジョン

将来あるべき姿を描いたもの。大切にする価値観。

→未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方

こまつを編む。こまつを巡らす。

—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—



編む

まちの中にある多様な資源を結び付け、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく。

巡らす

人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が、地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく。

情報

多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していく。

つながり

多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら関係性のつながりをつくり、動かしていく。

とき

まちの歴史のなかにある資源（ヒト・モノ・コト）を掘り起こし、未来へつないでいく。

コンセプト

ビジョンを実現する具体的構想。「何を提供するか」→施設が担っていくこと

持ちより共有し、出会う場所 (こまつコモンズ)

人々が、得意なことや悩み等、様々なものを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、そしてその人たちがやりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

ともにづくり、育む場所 (こまつキャンパス)

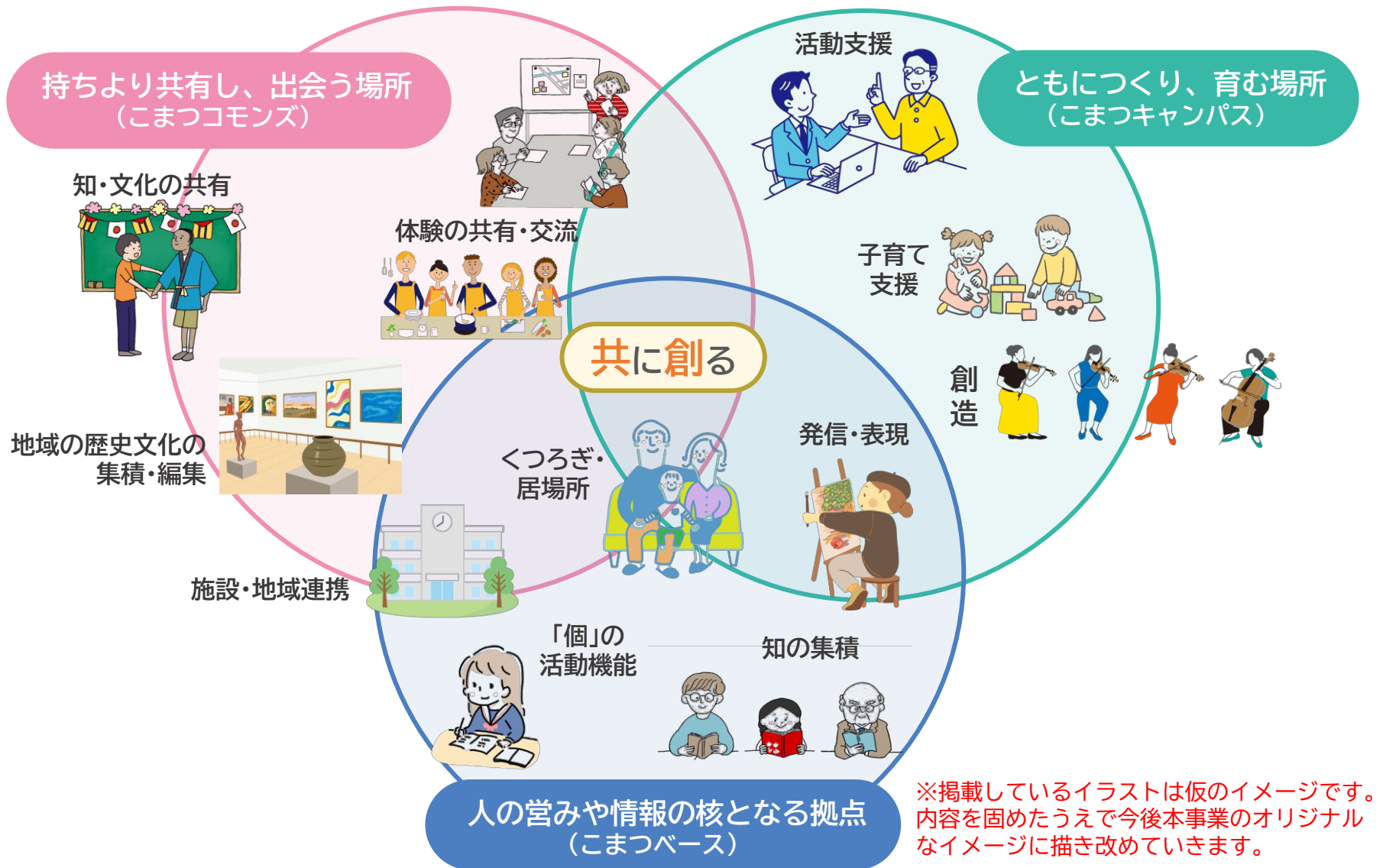
多様な人が関わり合いながらづくり、人やまちを育んでいく場所。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

共に創る

情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）のむすびつけ、編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。

人の営みや情報の核となる拠点 (こまつベース)

未来型図書館に考えられる役割（機能）



7月

1

9月

2

3

12月

4

まちの中での施設の
体験を描く

ストーリーづくり

第4回

※資源：小松市に存在する「ヒト」・
「コト」・「モノ」・「場所」

**「未来型図書館」を通して、まちのなかで
どんな体験ストーリーが生まれるか**

「未来型図書館周辺の妄想ストーリー」
を描こう

ビジョン・コンセプト案
をもとに、未来型図書館で
どんな体験ができるか
妄想してみましょう

みなさんの考えたストーリーが、
基本構想のコンセプトに基づく機能検討のステップに
つながっていきます

3. 対話「『未来型図書館周辺の妄想ストーリー』を描こう」 (70分)

①妄想ストーリーラフづくり (個人)

これまでのつながるミーティングで膨らませてきた未来型図書館のイメージや、オリエンテーションで説明されたビジョン案・コンセプト案から、未来型図書館が小松市というまちにできることで、施設を通してまちのなかでどんな体験が生まれそうか、妄想ストーリーを考えてみる。

※可能であればイラストなども添えられると
なおよいです！

対話「『未来型図書館周辺の妄想ストーリー』を描こう」

「未来型図書館」を通して、まちのなかでどんな体験ストーリーが生まれるか
ストーリーボード

人物背景 年齢、属性（学生、社会人、子育て世代など）、人生で重視していることなど。
メインの人物 体験に関係する人物

妄想ストーリー タイトル
妄想ストーリー コンセプトとの関連

施設に必要な役割（機能） 施設に必要だと思う役割（機能）

妄想ストーリー サンプル

人物背景

年齢、属性（学生、社会人、子育て世代など）、人生で重視していることなど。

メインの人物

Aさん：シニア男性。会社員勤めをしていたが定年を迎え、その後の生きがいを模索中。歴史好き。

体験に関係する人物

Bさん：同じくシニア男性。同じ趣味を共有し合える仲間を探している。

妄想ストーリー

タイトル

ともに学び合いながら情報をつくる

妄想ストーリー

小松市民のAさんは、未来型図書館の一角に設けられた貸本棚を利用して、自分の関心や思い出深い本を持ち寄り、一つの棚に収めてまちの人たちに公開しました。

同じように貸本棚を利用して、それぞれの世界観が表現された本棚がほかにもたくさんあり、Aさんにとってはそれも興味深く、ある日、貸本棚のオーナー同士の交流会でとても刺激を受けた本棚をつくっていたBさんと直接話し、意気投合しました。

地域の歴史についての関心でつながった二人は、お互いの知識を交流し合うことで、まだまだ自分には知らない領域があることに気づき、さらに情報を得るために図書館や博物館を利用して、まちにどんな資源があり、それにはどんな意味があるのか、より知識を深めていくようになりました。

知識を交流させ、深めていく喜びを知った二人は、より広く多様な人と学ぶ機会を自分たちでつくってみたいと考えるようになりました。そこで、市民活動サポートセンターに相談しながらウィキペディアタウンのイベントを立ち上げ、まちの人たちで学び合いながら情報をつくっていくという体験に展開させていきました。

コンセプトとの 関連

持ちより共有し、
出会う場所
(こまつコモンズ)

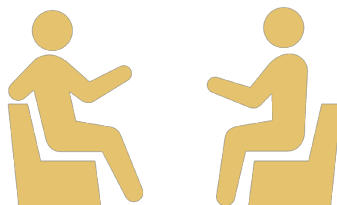
人の営みや情報の
核となる拠点
(こまつベース)

ともにつくり、
育む場所
(こまつキャンパス)

②ペアレビュー （ペア）

ストーリーボード・ペアレビューシートを
交換し、聞きあい記録する

- ◆ 近くに座っている人とペア（できるだけもともとの知り合いではない人、年齢などの属性が違う人がいいです）となり、お互いの考えた妄想ストーリーを紹介しましょう。
- ◆ 「ペアレビューシート」を使って、お互いのストーリー、その背景にある経験についてインタビューをしながら掘り下げてみましょう。



お互いの実体験と重ねながら
掘り下げてみましょう！

対話「『未来型図書館周辺の妄想ストーリー』を描こう」

ペアレビューシート

名前： _____ ペアの名前： _____

Q1. その人物設定をした理由は何ですか？

Q2. 描いたストーリーはあなたが実際に経験したことですか？経験したことの場合、その時の気持ちや具体的なエピソードを教えてください。
(※経験したことでない場合はそのストーリーを思い付いた理由)

Q3. あなたは、未来型図書館はどんなことができる場所だと思いますか？

Q4. 妄想ストーリーを実現するためには、未来型図書館にどのような機能や場所があるのでしょうか？

Q5. その他相手の妄想ストーリーから気になったところや聞いてみたいこと（自由質問）

③妄想ストーリーのブラッシュアップ (個人)

ペアでレビューした気づきをもとに、改めて妄想ストーリーをブラッシュアップしてみましょう。自分やペアの実際の体験や経験談から、より具体的なイメージに落とし込みます。

④共有 (グループ)

どんな妄想ストーリーが出来上がったか、グループに分かれて、ペア以外の参加者のみなさんとも共有してみましょう。



第5回 予告

ともに作り続けていくための
体制づくり

「ともにつくってきた本の活用について」

作戦会議をしよう

- 開催日：2月5日（日）13:30～
- 会場：第一地区コミュニティセンター